

大宮前囃子



〔登録年月日〕昭和五七年一月一日  
〔種別〕無形民俗文化財（民俗芸能）  
〔名称〕大宮前囃子  
〔点数〕  
〔所有者等〕大宮前郷土芸能保存会

## 大宮前囃子

世田谷区千歳船橋の「船橋囃子」の流れをくむものと伝えられ、後述の高井戸囃子と同じく下高井戸八幡神社の宮司斎藤近太夫（文政五年（一八二二）生）が指導したものと伝えられている。

春日神社には囃子連が大正十一年（一九二二）に奉納した絵馬額があり、それには「創立安政三年以来連名」の墨書銘がある。また、安政二年（一八五五）のいわゆる「安政大地震」の時には丁度囃子の練習を行っていたとの伝承も残されており、そうしたことから考えると安政年間には囃子が伝えられていたものと思われる。

編成は大太鼓（おおど）一人、メ太鼓（しらべ）二人、笛（とんび）一人、鉦（よすけ）一人の五人で、早間の囃子である。

曲目は通常は「早（屋台）」「鎌倉」「国固め」「四丁目」「早（屋台）」の順に演じるが、「もどき」「天狐」「獅子舞」などの踊りも演じることができる。

保存会は昭和三〇年（一九五五）頃の発足といわれ、主に春日神社の祭礼をはじめ、種々の行事に参画し活動している。

### 【文化財所在地】

